

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874600188		
法人名	医療法人社団創生会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県豊岡市但東町中山679-1		
自己評価作成日	令和8年2月25日	評価結果市町村受理日	令和8年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和8年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事や風習を大切に、地域の店舗の利用も継続している。調理など家事全般、風習にちなんだ物づくり、季節行事などご入居者と一緒にやっている。ご本人・ご家族を含め、チームとしてご本人の生き方や活動の支援に努めている。面会時やお便りでご様子をお伝えし、情報を共有できるよう努めている。

コロナ以降、外出する機会が減っていたが、ご家族の協力も含め、徐々に再開している。職員体制については、子育て中のママさんや高齢になっても働ける職場作りを目指している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた環境にあり、平屋造りの本館・新館は、長い廊下の窓から自然の風景が臨め、採光で明るく、季節感を取り入れた家庭的な環境である。ラジオ体操を日課とし、個別・集団レクリエーション、家事参加・園芸活動等、活動的に過ごせるよう支援している。ケアハウスと併設され、会議・委員会・研修・訓練、併設施設の看護師との医療連携等の体制を整備している。地域への外出、地域行事への参加、ボランティアの来訪等、利用者が地域と交流できるよう支援している。手作り調理を併用し、利用者も参加できる場を設け、行事食・食事イベント・おやつレクリエーション等の工夫もある。毎月、利用者担当職員が個別のお便り・写真等を郵送し、家族との面会・外出・外泊を支援し、家族とのつながりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を各ユニットに掲示、また会議録に明示し共有している。	法人の経営方針・経営理念を共有し、その中に地域密着型サービスの意義を明示している。本館・新館の玄関等に掲示し、「業務改善委員会」の議事録に明記し共有を図っている。毎月の「業務改善委員会」の中で、業務や利用者支援について検討する時は理念に立ち戻り、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩、美容院、通院を可能な限り継続している。	地区の秋祭り・チューリップ祭りへの参加、文化展・見学（町の支所ホール）、秋祭りの屋台見学等の地域行事を通して、利用者が地域交流できる機会作りを行っている。草取りのボランティア、「お正月飾り」づくりの福祉委員の来訪があり、「お正月飾り」づくりには利用者也参加している。近隣への散歩・理美容・通院等も継続できるよう取り組んでいる。事業所としても、地域の見守りネットワークづくりに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行方不明になる可能性があるご入居者の情報を共有させていただき、地域全体で見守りができる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動や取り組んでいることを報告している。地域の情報も併せて意見交換を行う場としている。	家族代表（グループホームから2名・ケアハウスから1名）・市職員・地域代表（民生委員・地域住民・コミュニティセンター地域支援員・小学校校長）・知見者（他事業所管理者）・施設職員を構成委員とし、併設施設（ケアハウス）と合同で、2か月に1回開催している。会議では、資料（利用者状況・拘束事例の有無・待機者数・行事・研修・会議、委員会・職員配置・その他報告等）を基に報告し、構成委員と意見・情報交換し議事録を作成している。議事録は、新館玄関に閲覧ファイルを設置し公開している。	現在は利用者の参加が困難な状況にあるが、今後利用者状況に応じて、可能な範囲（短時間参加など）で参加を検討することが望まれる。

グループホームこころ

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きお互いの情報提供を行っている。	運営推進会議に市から参加があり、市が派遣する介護相談員の来訪が3ヶ月に1回あり、市と連携している。報告・連絡・相談等があれば、主に電話で支所に報告や問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の会議で身体拘束をなくす方法を探し続け、正しい理解の振り返りを進めている。	「身体拘束等の適正化の指針及び身体拘束に関するマニュアル」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。毎月のユニット会議での検討内容をもとに、「業務改善委員会」の「倫理委員会（身体拘束適正化委員会）」で、拘束事例の有無・施錠の在り方等について検討している。議事録は回覧し、回覧印で周知を明確にしている。年間研修計画を基に、8月と12月にレポート研修を実施し、全職員が「研修参加報告書」を提出している。玄関は施錠しているが、利用者に外出の意向があれば職員が同行し閉塞感を感じないように取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議で虐待防止方法を探し続け、正しい理解の振り返りを進めている。	「高齢者虐待防止指針」を整備している。毎月のユニット会議での検討内容をもとに、「業務改善委員会」の「倫理委員会（虐待の防止）」で、不適切ケアにつながる可能性がある事例の有無・防止に向けた取り組み等について検討している。年2回、「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」の「半期のまとめ・評価」も行っている。議事録の周知は上記と同様に行っている。研修は、5月と10月に上記と同様に行っている。管理者が、定期的には年2回、随時にも面談を行い個別に職員の意見を聞く機会を設け、法人としても、ストレスチェックを実施する等、職員のストレス等がケアに影響しないように取り組んでいる。	

グループホームこころ

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している 成年後見制度の利用事例はあるが、今後も知識を深めていけるよう努めます。	現在、成年後見制度の利用事例はない。以前に利用事例があった際は、利用者状況の報告・金銭管理資料等の提供・面会対応等、制度活用の支援を行っていた。権利擁護に関する制度についての研修を毎年実施し、今年度も3月にレポート研修を実施する予定である。制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が説明し、関係機関と連携して支援することとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている 書面を提示しながら口頭で説明を行っている。	入居希望・相談があれば、見学対応して館内を案内・説明し、パンフレット・料金表に沿って、サービス内容・費用・事業所の特徴等を説明している。契約時には、管理者が契約書・重要事項説明書・同意書・指針・各種書類等を基に説明し同意を得ている。特に、費用や退居要件については詳細に説明している。契約内容改定時は、変更内容を明記にした「覚書」を郵送し同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている カンファレンス時や面会の時にご要望をお聞きしている。	面会・電話連絡の際に近況を伝え、家族の意見・要望を聞き取るようにしている。「施設サービス計画」更新前にも、家族の意向を確認している。毎月、利用者担当職員が個別のお便り・写真等を郵送し、利用者個々の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。利用者の意見・要望等は日々の会話の中で把握に努めている。把握した利用者・家族の意見や要望は、タブレットの「介護記録」等で共有し、個別に対応している。運営推進会議に家族の参加があり、介護相談員の受け入れを行い、家族や利用者が職員や外部者に意見・要望等を表せる機会を設けている。	

グループホームこころ

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「自分たちの職場は、自分たちで作る」を合言葉に運営を進めている。ユニット会議や業務改善委員会を定期的に開催し、施設作りにつなげている。	月1回、職員会議(グループホーム・ケアハウス合同)とユニット会議を実施している。職員会議では各事業所からの報告、委員会(業務改善委員会等)を行い、職員の意見・提案を利用者支援・業務改善・運営等に反映できるように取り組んでいる。ユニット会議では、利用者個々のケース検討を行っている。各会議は詳細な議事録を作成し、議事録の回覧により職員の周知を図っている。随時の検討事例については、検討結果をタブレットで迅速に共有できる仕組みがある。管理者の定期面談・随時面談を実施し、職員の意見等を個別に聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、個別に面接を行っている。各職員が目標を持ってやりがい・実績作りに進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、各テーマで内部研修を行っている。資格取得に向けての研修も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知見を有する者として、管理者がお互いの事業の運営推進会議に参加している。お互いに情報交換をしながらサービスの質の向上に努めている。		

グループホームこころ

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご家族から情報提供の協力をいただき、専門的な立場で見解し、自立支援をもとに、本人が必要とされていることを探りながらケアのヒントとさせていただいている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの段階で、今現在困っていること、施設に期待することをお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階でご様子を伺い、緊急性を見極めている。緊急性の高い方から入居の案内をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共同生活の一員と捉えている。家庭的な雰囲気づくりの一環としてユニフォームを定めていない。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もご入居者を支えるチームの一員として捉えている。カンファレンス以外でも、ご家族にケアの方針について相談したり、在宅時のご様子を聞きながらケアのヒントにしている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容院や主治医、地域行事への参加等可能な限り、利用継続している。面会も可能な限り開放している。	家族との面会、本人・家族の了承を得て友人・知人との面会に対応し、居室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。地域行事への参加・理美容・受診等の機会に馴染みの場所との関係継続ができるよう、家族や事業所が外出支援を行っている。

グループホームこころ

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの食席、それぞれの個性や価値観、相性に配慮している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、機会がなく経過している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のご家族からのアンケートを参考に、アセスメントやユニット会議で、担当職員が中心となり思いをお聞きしたり、代弁し、職員間で共有している。	利用者個々の思いや暮らし方の希望・意向について、入居時に聞き取った内容を記録した「アセスメントシート」(趣味・余暇・日課・希望・悩み事等)や、家族記載の「情報提供書」(背景・希望・性格・余暇・趣味等)を基に把握している。入居後に把握した情報は、担当職員が「ケース記録」に記録してユニット会議で共有し、「計画」見直し時に「アセスメントシート」に追記し、計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や日々の様子から汲み取り、過去の情報も参考に利用者の意向に沿った支援に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族からのアンケートを参考に、アセスメントや普段の会話のなかからお聞きしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子を記録に残し、出来ることや困りごとの把握に努めている。		

グループホームこころ

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で現状や課題などを挙げ、日々のケアに活かし、ケアプランに反映している。更新前にはご家族と情報を共有し意見やご意向を踏まえケアプランを作成している。	家族記入の「情報提供書」と「アセスメントシート」をもとに、家族・管理者・担当職員がカンファレンスを行い、初回の「施設サービス計画（以下「計画」）」を作成している。初回は長期目標期間を6ヶ月、短期目標期間を3ヶ月とし、その後は長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月としている。毎月のユニット会議で、利用者の状況やケアについて共有、検討している。必要時は随時、定期的には短期目標期間に合わせて、「計画」の見直しを行っている。見直しの際には、「モニタリングシート」によるモニタリング・評価と「アセスメントシート」による再アセスメントを行い、家族同席でカンファレンスを行って検討している。利用者・家族の意向、主治医・看護師など関係者の意見を「カンファレンス記録」に記録し、「計画」に反映している。「介護記録」は利用者個々の「計画」の実施状況を記録できる書式となっており、タブレットに「種別」を記して時系列に入力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践等を記録に残し、共有すると共に、ユニット会議にて振り返りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出支援や個別の外出等を計画し実践に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの一つである文化展に出展することで意欲に繋がっている。		

グループホームこころ

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を基本としている。状態に応じ協力医療機関への移行も検討している。	入居前からのかかりつけ医での受診を基本とし、「アセスメントシート」の基本情報欄で主治医を確認している。身体状況に応じて、かかりつけ医の往診を依頼し、状態に応じて、協力医療機関へ移行している。近隣の協力医療機関での受診(内科・整形外科等)や、他科受診、必要時に訪問歯科の往診を受けられる体制がある。外部受診は基本的には家族が同行することとしているが、事業所職員が対応することも多い状況である。受診結果等は、タブレットの「ケース記録」の種別「通院・往診」に記録している。併設施設の看護師との医療連携体制があり、日々の健康管理や医療機関との連絡等に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への相談、処置依頼等適宜行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを医療機関に提供している。入院中は電話でご様子をお聞きしている。退院時には病院より受け入れ体制の確認がなされる。状態を再確認し、看護サマリーでの情報提供も受け退院となる。	入院時は「介護サマリー」で、医療機関に情報提供している。入院中は、入院先の医療連携室と電話で情報交換し、連携を図りながら早期退院に向け支援している。退院時には、医療連携室より受け入れ体制の確認がなされ、「看護サマリー」で情報提供を受け、退院後の支援に反映している。入院中や退院時に把握した情報は、タブレットの「ケース記録」に記録し共有している。	

グループホームこころ

自己 評価	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後ターミナルについてご家族と方針を共有し、ターミナル期に入れば、再度、事業所の方針と主治医の見解、ご家族の意向とのすり合わせを行っている。	契約時・初回カンファレンス時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を、「重度化した場合における対応に係る指針(医療連携体制契約書)」「ターミナルケアに関する指針・体制について」を基に説明し、意向を確認し、文書で同意を得ている。6ヶ月毎の「計画」更新時に、カンファレンス内で意向を再確認し、基本情報の「緊急時・ターミナルのご意向」欄に記録している。重度化を迎えた段階で、病院で主治医から家族に説明を行い、管理者も同席し意向を確認している。看取りの希望があれば、「ターミナルケア同意書」で同意を得て、看取り介護に向けた「計画」を作成し、3ヶ月毎に更新している。主治医・家族・事業所職員・併設施設看護師がチームで連携し支援に取り組んでいる。12月に「ターミナルケア」に関するレポート研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員対象に緊急時対応研修(実地研修)を行い、事故発生時に備えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を実施している。	令和7年度は5月に日中想定、12月に夜間想定 of 火災避難訓練を、消防署立ち合いのもと、併設施設合同で、職員・利用者も多数参加して実施している。「避難訓練報告書」を作成し、総評欄に実施内容・消防署の意見等を記録し、全職員に回覧し、回覧印により周知を確認している。5月は運営推進会議の後に訓練を実施し、構成委員も見学参加し、消防署との情報交換や協力依頼により、地域との連携体制を築いている。例年、土砂災害避難訓練を実施している。BCP(業務継続計画)については、5月にBCP研修と机上訓練を実施している。ユニット毎に食料・備品を備蓄し、管理者と担当職員が管理している。	

グループホームこころ

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の会議で不適切ケアの防止を観点に、ケアのあり方を振り返っている。内部研修も行っている。	「接遇」については講義形式とレポート研修を、「認知症ケア」「人権擁護」「プライバシー保護」等についてはレポート研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応について学ぶ機会を設けている。主に毎月のユニット会議で、不適切ケアの観点から、行動制限やスピーチロック等の未然防止について議題にあげて話し合い、月1回業務改善委員会の中の倫理委員会で共有し、意識向上に取り組んでいる。お便り・Instagramなどの写真掲載については、入居時に文書で同意を得ている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いやしてほしいことなどが言えるよう、オープンクエスチョンを心がけている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日課や過ごし方を尊重し、持続できるようサポートを行っている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に沿って、衣類の選択、選定が出来るよう身だしなみのサポートをしている。			

グループホームこころ

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共同生活の一環として、一緒に準備や片付け等をして頂いている。	献立はユニット毎に当日出勤の職員が考え、日常的な食事も行事食を、手作り調理と湯煎調理を併用して提供している。現在、全利用者に普通食を提供している。職員も同じメニューで、一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事ができるよう工夫している。利用者の好みや力を活かして、野菜や果物の皮むき、盛り付け、食器・お盆・テーブル拭き等の家事作業に参加できるよう支援している。2ヶ月に1回、「食生活向上委員会」を併設施設の給食委員会と合同で開催し、行事食・調理員のヒヤリハット・栄養士からの助言等を共有し、支援に反映している。献立にはおせち料理・ひな祭りちらし寿司・年越しそば等の行事食が取り入れられ、季節感を感じられるよう工夫している。またイベント(餅つき・芋煮会・夏祭り)・おやつレクリエーション等、利用者が食事を楽しめる多様な機会作りに取り組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の活動量、身体状況・持病を踏まえたメニューや最低水分量の確保に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアのサポートを行っている。不具合が起きた場合は歯科往診へ繋げている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの周知、及び自立支援をふまえた介助のあり方を検討し、実践している。オムツ種の見当も随時行っている。	タブレットの「排泄記録」で利用者の排泄状況・排泄パターンを把握し、ニーズに応じて、個別に声かけや誘導支援を行っている。現在、自立度が高い利用者が多く、基本的には日中はトイレでの排泄を、夜間は状況に応じて個別に支援している。排泄用品や支援方法に検討事項があれば、毎月のユニット会議で検討し、議事録で共有している。ユニット会議での検討や研修の中で意識付けを行い、誘導時・介助時のプライバシーへの配慮について周知を図っている。	

グループホームこころ

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃からこまめな水分摂取や体を動かすことを勧めている。個々の排便間隔を理解して、必要時医療と連携し下剤の調整を行っている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、マンツーマンの入浴介助を原則とし、ゆっくりとした入浴場面を重要視している。	週2回の入浴を基本とし、タブレットの「入浴記録」と「入浴チェック表ボード」で実施状況を確認し、利用者の体調や気分を考慮しながら3日に1回は入浴できるよう取り組んでいる。一般浴槽の個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴で対応している。同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否がある場合は声かけ方法を工夫したり、日時や職員を変更する等柔軟に対応し、入浴機会が確保できるよう取り組んでいる。ゆず湯等で、入浴がより楽しめる工夫も行っている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、衣類、排泄スタイル、空調、照明等のサポートをしている。個々の体力に応じて必要時に休息を進めている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントにて、薬内容・用量等の把握に努めている。服薬時に何が何錠あるかを明記している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートや日々の記録から情報を共有し個別に支援している。		

グループホームこころ

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に付き添える体制作りに努めている。地域のイベントやご家族との外出等の支援を行っている。	気候の良い時期には、近隣の散歩に出かけ、プランターや畑での花や野菜の栽培・水やり・草取り等、戸外で過ごす機会を設けている。初詣・とんど・花見・地域行事(チューリップ祭り・地区の秋祭り・支所ホールでの文化展)への参加等、外出支援を行っている。家族との外出・外泊も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用が可能な方は、所持すること、使用する場面を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は、電話の取次ぎや手紙の投函等サポートをしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内の配置は、ご入居者の相性や移動空間に配慮している。館内の壁には季節感が感じられるよう飾りの工夫をしている。	本館・新館ともに平屋造りで、長い廊下の窓からは自然の風景を見ることができ、採光で明るく、開放感もある。清掃が行き届き、加湿器・空気清浄機の設置、窓の換気により、清潔感があり快適な環境である。共用空間にテーブル席・ソファ席・テレビ・本棚を、廊下にも随所にソファや椅子を配置し、本館には畳スペースもあり、利用者が思い思いにくつろげるよう環境を整備している。利用者と職員が一緒に制作した季節の作品や塗り絵、タペストリーが壁面に飾られ、畑やプランターで季節の野菜や花を育て、生活に季節感を取り入れている。リビングにキッチンスペースがあり、調理の音や匂いから家庭的な雰囲気を感じられ、日常的に食事の盛り付けや食器拭き、洗濯たたみやモップかけなどの家事参加を支援し、生活感も取り入れている。ラジオ体操を日課とし、唱歌・ぬり絵・パズル等の個別レクリエーション、16時以降はかるたやゲームを取り入れるなど、活動的に過ごせるよう工夫している。長い廊下を歩行運動にも活用し、機能低下予防に努めている。	

グループホームこころ

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要所要所にソファを置き、過ごしたい場所を選択できるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、家で使い慣れている物や見覚えのあるものをお持ちいただいている。 居室環境もご本人が使いやすい、移動しやすいよう適宜検討・変更している。	居室は全室和室で、洗面台・押し入れ(クローゼット)が設置され、ベッドは利用者の希望に応じて、自宅からの持ち込み・事業所備品の介護用ベッドで対応している。筆筒・椅子・炬燵・座椅子など使い慣れた家具や、テレビ・写真・本・日記など馴染みの物や趣味のものが持ち込まれ、その人らしく過ごせるよう工夫し、趣味を継続できるよう支援している。利用者の身体状況や動線に合わせて家具の向きや位置を調整している。利用者の状態に変化があればユニット会議で検討し、レイアウトを変更したり、必要に応じて福祉用具を設置し、安全に自立した生活が継続できるよう取り組んでいる。利用者担当職員が、家族と連絡を取りながら、衣替えや環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でトイレや自室に行ける様表示をしたり、手すりが使用できる等随時環境整備に努めている。		